

## ある秋の眠り

小雨・・・チン、リン  
夜・・・チン、リン

まどろみの耳元  
記憶は難産であるらしい  
青年は苦しげに寝返る

微風・・・チン、リン  
みどりば  
緑葉・・・リン、リン

不動は呼びさます  
静寂の中で培養され  
単調な一本の音は茎

遠近・・・チン、リン  
左右・・・チン、リン

響き、重なり重なり  
時折の鋭き共鳴  
汗は顔に滲み出る

チン、リリン  
リン、リリリリリリリリ・・・

がばと跳ね起き、青年  
汗を拭いもせず  
空虚の中に、目は開いていた

チン、リン・・・  
しまい忘れた風鈴  
何を青年に刺したか

(1982.5.2)